

早島町 GIGA スクール構想に基づく「1人1台端末」利活用計画

はじめに

グローバル化や情報化が進む現代社会において、子どもたちが主体的に考え、協働し、より良い社会を創り出すためには、情報活用能力や協働的な学びの経験が不可欠である。

GIGA スクール構想は、この課題に対応するために、全国の児童生徒1人1台に学習用端末と高速大容量の通信ネットワークを整備する文部科学省の取り組みである。

本計画は、GIGA スクール構想に基づき、1人1台端末をはじめとする ICT 環境を活用した教育活動を推進し、子どもたちの学びを個別最適化し、未来を生き抜く力を育むことを目的としている。

1. 端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
児童生徒数	1,251人	1,244人	1,278人	1,300人	1,268人
予備機を含む 整備上限台数	1,438台	1,131台	870台	595台	258台
整備台数 (予備機除く)	270台	270台	270台	270台	188台
整備台数のうち 基金事業によるもの	270台	270台	270台	270台	188台
累積更新率	21%	43%	63%	83%	100.0%
予備機整備台数	30台	30台	30台	30台	21台
予備機整備台数のうち 基金事業によるもの	30台	30台	30台	30台	21台
予備機整備率	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	11.2%

(端末の整備・更新の考え方)

○令和6年度に、令和元年度以前に先行整備した端末のリース期間が満了しているため更新する。また、令和2年度に GIGA 第1期で整備した端末はバッテリーの消耗率が高く、日常的な利活用に支障が出かねない状況にあるため更新を行う。

○令和7年度以降についても、令和2年度に GIGA 第1期で整備した端末を優先して更新を行う。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：1,265 台

○処分方法

- ・処分事業者による引き取り：1,211 台
- ・各学校によるリユース：54 台

基本的なデータ消去を行った上で、教職員の業務用端末として活用する。

○端末のデータの消去方法

- ・引き取り 1,211 台分については、処分事業者が行う。
- ・リユース 54 台分については、各学校の職員が行い、その後使用できなくなるまで学校にて保管し、その台数がある程度まとまった時点で、データの消去も含め、小型家電リサイクル法の認定事業者へ再資源化を委託することを計画している。

○スケジュール（予定）

- ・令和7年3月 新規整備端末の使用開始
- ・令和7年4月 使用済端末の端末調達事業者への引き渡し
- ・以降、各年度で新規整備端末の使用開始後に、使用済端末の端末調達事業者への引き渡しを行う。また、リユース分については、新規整備端末の使用開始後に使用開始する。

2. ネットワーク整備計画

(1) 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合

インターネットへの接続は小学校・中学校専用の環境を利用しており、最大300Mbpsの回線で接続されている。必要なネットワーク速度が確保できている学校は2校中、0校(0%)である。

(2) 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

① ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和7年7月までに課題の特定を完了させる。

② ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年8月から改善策の検討を開始し、対象校における改善策を実施する。

現在の300Mbpsの帯域を増強する必要がある。また、ネットワークアセスメントの結果により、無線環境設備が、老朽化等により本来の通信速度が確保できない場合には、設備の更新を令和7年度末までに行う。

(3) 計画の追記 (R8.2.28)

令和7年度に通信回線契約の見直しを行い、令和8年1月からは最大1Gbpsの回線で接続されている。これにより「学校規模ごとの当面の推進帯域」を超える学校数は2校中2校(100%)となり、全ての学校において必要なネットワーク速度を確保した。

3. 校務 DX 計画

現代社会において、情報化技術はあらゆる分野に不可欠なものとなり、教育現場も例外ではない。本校では、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、未来社会を生き抜く力を育むために、校務 DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する。

また、情報化認定は、学校における情報化の取組を客観的に評価する制度であり、学校全体の情報化レベルを向上させるための指針となる。校務 DX 計画において情報化認定に関する取り組みを位置付けることは、計画の質を向上させ、効果的な推進を実現するために重要である。

情報化認定の評価項目を参考に、現状の課題を分析し、具体的な目標と取組を設定するだけでなく、情報化認定の基準や評価項目について理解を深め、ICT 活用スキルを向上させるための研修を実施したり、定期的に進捗状況进行评估し、必要に応じて計画を修正したりし、認定の更新を目指す。具体的には、以下の重点項目に焦点を当て、段階的に取組を進めていく。

（1）校務 DX 推進体制の構築

- ・教職員の ICT 活用能力向上と積極的な授業への活用を促進するために、「ICT 支援員」を配置する。
- ・外部講師や専門家による研修を実施し、教職員のスキル向上を支援する。

（2）保護者との情報共有の強化

- ・クラウドサービスを用いた一斉配信で、お便りや配布物をペーパーレス化し、保護者の負担軽減と情報共有の効率化を図る。
- ・各種連絡、アンケート、調査、日程調整などをクラウドサービスで実施する。
- ・オンライン面談や説明会を導入し、時間や場所の制約を受けない参加を実現する。

（3）児童生徒への ICT 活用の推進

- ・1人1台端末を持ち帰らせ、家庭学習や情報リテラシー教育を推進する。
- ・クラウドサービスやデジタル教材を用いた宿題、テスト、アンケートを実施し、個別最適な学習環境を提供する。
- ・CBT システムを導入し、効率的なテスト実施と分析を実現する。

（4）校務の効率化

- ・クラウドサービスで職員会議資料を共有し、ペーパーレス化と事前情報共有による会議の質向上を図る。
- ・校内研修をオンラインやオンデマンド視聴で実施し、時間や場所の制約を受けない参加と効率化を実現する。
- ・校務支援システムの名簿情報の入力については、今後も継続して、町教委から学校へデータでの提供を行うことで、合理化を図る。
- ・次世代校務支援システムの導入に向け、令和7年度の更新時期に合わせて、令和6年度中に導入の検討を行う。

（計画の追記 R 8.2.28）

令和7年度から、クラウド型の次世代公務支援システムを導入済み。

- ・校内業務において FAX、押印の原則廃止に取り組み、業務の効率化を図る。

（5）セキュリティ対策の強化

- ・児童生徒、教職員、保護者への情報モラル教育を実施し、情報セキュリティ意識を高める。

GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリストに基づく自己点検

	早島中学校	早島小学校	R 8 目標
1. 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか。	完全にデジタル化している	完全にデジタル化している	
2. 業務時間外の保護者の問い合わせ等について、クラウドサービス等を用い、PC等から受け付ける体制を整えていますか。	整えていない	整えている	中○
3. 保護者へ発信するお便り・配布物等は、クラウドサービスを用いて一斉配信していますか。	完全にデジタル化している	完全にデジタル化している	
4. 保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	一部している (半分未満)	一部している (半分以上)	小中○
5. 保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	完全にデジタル化している	完全にデジタル化している	
6. 保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っていますか。	完全にデジタル化している	全くしていない	小○
7. 学校説明会や保護者面談などにオンライン形式を取り入れていますか。	一部取り入れている (半分未満)	一部取り入れている (半分以上)	小中○
8. 学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して徴収金の徴収を行っていますか。	完全にデジタル化している	完全にデジタル化している	
8-1. 学校徴収金の徴収にどのようなツールを活用していますか。	口座振替	口座振替、その他	
9. 1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしていますか。	時々持ち帰り、時々利用させている	毎日持ち帰って、毎日利用させている	中○
10. 児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか。	完全にデジタル化している	一部している (半分以上)	小○
11. 児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	完全にデジタル化している	一部している (半分以上)	小○
12. 宿題（学期中）をクラウドサービスやデジタル教材を用いて実施・採点していますか。	一部している (半分以上)	一部している (半分以上)	小中○
13. 宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタル教材を用いて実施・採点していますか。	一部している (半分以上)	一部している (半分以上)	小中○
14. クラウドサービス等を活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れていますか。	取り入れている	取り入れている	
15. クラウドサービス等を活用し、定期テストにCBTを取り入れていますか。	取り入れている	取り入れている	
16. 職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか。	完全にペーパーレス化している	完全にペーパーレス化している	

17. 職員会議等における検討事項について、クラウドサービスを用いて事前に情報共有し、あらかじめ意見を求めていますか。	毎回求めている	一部求めている（半分以上）	小○
18. 職員会議等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。	全くしていない	全くしていない	小中○
19. 職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。	取り入れている	取り入れている	
20. 校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って、いつでも確認できるようにしていますか。	完全にデジタル化している	完全にデジタル化している	
21. 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか。	一部している（半分未満）	必要な資料はすべて共有している	中○
22. 授業研究会や校内研修等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。	全くしていない	一部している（半分未満）	小中○
23. 校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか。	取り入れている	取り入れている	
24. 授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。	取り入れている	取り入れている	
25. 教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	完全にデジタル化している	完全にデジタル化している	
26. 教職員から学校へ提出する事務手続資料は、クラウドサービスで受け付けていますか。	一部受け付けている（半分未満）	一部受け付けている（半分未満）	小中○
27. 学校から教職員に紙で提出を求めている書類はありますか。	ある	ある	
28. 長期休暇期間（夏休み等）の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。	用いていない	用いている	中○
29. 教員に校務用の個人メールアドレスを附与していますか。	附与している	附与している	
30. 業務に FAX を使用していますか。	使用していない	使用している	小○
31. 保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類はありますか。	ある	ない	中○
32. 1人1台端末のパスワードは、教職員が一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せていますか。	児童生徒に任せている	教職員が管理している	小○
33. 学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるとともに、活用しやすいように整理され、閲覧できますか。	できる	できる	
34. 「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成 AI を校務で活用していますか。	一部の教職員が活用している（半分以上）	一部の教職員が活用している（半分未満）	小中○

4. 1人1台端末の利活用に係る計画

近年、情報化社会の進展は著しく、教育現場においても ICT 活用が不可欠となっている。早島町では、児童生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、未来を切り開く力を育むために、1人1台端末の積極的な活用と個別最適・協働的な学びの充実を目指した校務 DX を推進する。また、児童生徒向け1人1台端末環境を引き続き維持し、これを通じてより効果的な学習と成長を支援する。具体的には、以下の取り組みを実施する。

(1) 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末を活用し、児童生徒一人ひとりの個性と協働性を育み、主体的な学び、情報活用能力の向上、時間と場所にとらわれない学習、学習意欲の向上を目指す。これらの学びを通して、未来社会を生き抜くための力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

① 個性を活かした主体的な学び

- ・豊富な学習コンテンツやアプリで、自分のペースで理解を深め、興味関心に基づき学習を進める。
- ・AIによる学習支援や適応型教材により、一人ひとりの課題を明確化し、主体的な問題解決を促す。
- ・動画、音声、画像など、多様な教材フォーマットから、それぞれのスタイルに合った方法を選択し学習する。

② 協働的な学び

- ・オンラインツールで資料共有や意見交換を活発に行い、チームワークを強化しながら課題解決に取り組む。
- ・オンライン講演会や遠隔授業を通して、専門家の知見や経験を取り入れる。

③ 情報活用能力の向上

- ・情報収集、分析、編集、発信など、情報活用能力を体系的に学び、情報化社会に必要なスキルを身につける。
- ・動画編集、音声編集、プレゼンテーションツールなど、多様な表現方法を活用し、自分の考えやアイデアを効果的に伝える。

④ 時間と場所にとらわれない学習

- ・オンライン学習や学習アプリで、自宅や外出先など、いつでもどこでも学習できる環境を整える。
- ・個々のペースで学習を進められるので、時間制限に縛られることなく、自分のペースで学習できる環境を整える。
- ・オンライン個別指導や録画授業など、個別ニーズに合わせた学習支援を受けられる環境を整える。

⑤ 学習意欲の向上

- ・学習履歴やポートフォリオを活用し、学習状況を客観的に把握し、改善点を見つける。

(2) GIGA 第 1 期の総括

GIGA スクール構想第 1 期では、1 人 1 台端末と高速ネットワーク環境の整備が着実に進められ、教育現場における ICT 化の土台が築かれた。しかし、学校での端末活用には依然として課題が多く、期待されていた効果が十分に発揮されていない状況である。そこで、GIGA スクール構想の推進にあたり、解決すべき課題と具体的な解決策について考察する。

①学校の ICT 環境整備状況

ICT 機器等	整備基準	早島町
学習者用端末	一人に一台整備	小 (863 台), 中 (380 台)
指導者用端末	授業を担当する教師 1 人 1 台	1 人 1 台
大型提示措置・実物投影機	100% 整備 各教室 1 台, 特別教室用 6 台	各教室に 1 台, 100% 整備
高速大容量通信ネットワーク及び無線 LAN	100% 整備 ケーブルは幹線 Cat6A、機器 1Gbps	通信速度 1Gbps の校内 LAN、無線 LAN は整備済
統合型校務支援システム	100% 整備	100%
ICT 支援員	4 校に 1 人配置	2 校に 1 人

②研修内容の充実に向けて

ネットいじめやトラブル発生への不安から、積極的に活用を躊躇する教職員がいるため、ネット利用に関するルールを明確にしたり、フィルタリングソフトを導入したりするなど、教職員や児童生徒の不安を解消するための取り組みを行ってきた。また、生徒指導担当教員と連携して、トラブル発生時の対応体制を整備し、ネットモラル教育にも積極的に取り組んできた。

その一方で、ICT の活用方法や指導方法に関する悩みは、まだまだ存在している。その背景には、必ずしも研修機会の不足という単純な課題ではなく、研修内容の不十分さや、個々のニーズに合わせた支援体制の不足などが複合的に絡み合っていると考えられる。また、ICT の活用に積極的な学年とそうでない学年との間で活用度に大きな差があることも課題である。

これらの課題を克服するため、従来の「ICT の活用方法を教える」研修から脱却し、教職員が主体的に ICT を活用できるスキルを育む「ICT を活用した研修」へと内容を刷新する必要がある。そのため、以下の取り組みを実施する。

○実践的な演習

実際に ICT ツールを用いた授業を想定した演習を取り入れることで、教職員が自身の授業に活かせる具体的な方法を学ぶ。

○個別指導

研修内容や ICT ツールの操作方法など、個々のニーズに合わせた指導を行うことで、より深い理解とスキルアップを促進する。

○ICT 活用事例の共有

他の教職員の成功事例を Google Chat 等で共有し、自らの授業に活かせるアイデアやヒントを提供する。

○学年間の交流機会の増加

ICT 教育に積極的な学年の教員による授業公開や研修を実施することで、他の教職員が具体的な活用方法を学び、ノウハウを共有する。

(3) 1人1台端末の利活用方策

① 教職員の ICT 活用スキルの向上

- ・引き続き、教職員を対象とした ICT 研修を実施し、基礎的な操作スキルから授業での活用方法まで、段階的にスキルアップを支援する。
- ・研修内容は、教職員のニーズやスキルレベルに合わせて、個別指導やグループワークを取り入れるなど、多様な形式で実施する。
- ・学年を超えた教員間の交流機会を増やし、スキル向上とノウハウ共有を促進する。

② 1人1台端末の積極的な活用

- ・すべての授業で1人1台端末活用の目標を掲げ、教職員が積極的に活用できる環境を整備する。
- ・持ち帰りルールや環境整備は、児童生徒、教職員、保護者等の意見を参考に定期的に見直しを行う。
- ・家庭での学習支援として、学習アプリなどを活用する。

③ 個別最適・協働的な学びの充実

- ・AI 教材や適応型教材などを活用し、児童生徒一人ひとりに合わせた学習を提供する。
- ・協働的な学習を実現するために、オンライン学習やグループワークツールなどを活用する。

④ 学びの保障

- ・希望する不登校児童生徒への授業配信を実施し、リアルタイムでの参加や録画視聴など、柔軟な学習方法を提供する。
- ・希望する児童生徒への1人1台端末を活用した教育相談を実施し、個別の悩みや課題に合わせた相談・指導を行う。
- ・特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて、ICT を活用した支援を実施する。

教育 DX に係る当面の KPI

項目	K P I	現状値(R7)	目標値(R8)
教職員の ICT 活用スキルの向上	教員がコンピュータなどの ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある	小：100% 中：100%	100%
1人1台端末の積極的な活用	学校は、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、毎日使用させている	小：ほぼ毎日 中：ほぼ毎日	100%
	学習の中で 1人1台端末を使うのは勉強の役に立つと思う児童生徒の割合	小：92.7% 中：97.1%	100%
	1人1台端末を児童生徒に毎日持ち帰らせ、家庭学習においても活用している	小：毎日実施 中：時々利用	100%
個別最適・協働的な学びの充実	学校は、児童生徒が調べる場面において、1人1台端末を週3回以上使用させている	小：ほぼ毎日 中：週1回以上	100%
	学校は、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において、1人1台端末を週3回以上使用させている	小：週3回以上 中：週1回以上	100%
	学校は、教職員と児童生徒がやりとりする場面において、1人1台端末を週3回以上使用させている	小：週1回以上 中：週1回以上	100%
	学校は、児童生徒同士がやりとりする場面において、1人1台端末を週3回以上使用させている	小：週1回以上 中：週1回以上	100%
	学校は、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において、1人1台端末を週3回以上使用させている	小：週3回以上 中：週1回以上	100%
学びの保障	希望する児童生徒への授業配信を実施する体制を整備している	小：整備無 中：整備済	100%
	不登校児童生徒への1人1台端末等を活用した教育相談を実施する体制を整備している	小：整備無 中：整備無	100%

	特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて ICT を活用した支援を実施している	小：ほぼ毎日 中：月1回未満	100%
--	--	-------------------	------